

第 40 回 日本脳神経血管内治療学会学術集会 参加報告

札幌柏葉会病院 先端医療研究センター 平野 透

この度、柏葉脳神経外科病院は令和 6 年 12 月 1 日新病院移転に伴い病院名が札幌柏葉会病院に変更となりました。病院は南平岸の札幌リードタウン平岸ベースにあり、放射線領域のみならず最新の医療機器を装備し国内トップクラスの医療を提供していきます。ぜひお時間のある時にお越し頂ければ幸いです。

そんな移転間際の病院が忙しい時期ではありますが、令和 6 年 11 月 21~23 日、熊本城ホール並びに市民会館シアーズホームにて第 40 回日本脳神経血管内治療学会学術集会に参加してきました。脳神経血管内治療はこの 20 年で著しく発展・普及し、いまや脳卒中の第一選択の治療法となり、脳動脈瘤や急性期脳梗塞などの多くの脳卒中疾患がより簡便に比較的良好な成績で治療されるようになりました。その発展の主な原動力となったものとして、医療技術の進歩や治療手技の洗練化されてきています。また技術のスピードはここ数年加速していて、1 年前には治療の可能性があるデバイスが翌年には国内の数カ所で臨床使用されている状況になっており、国内の脳血管内治療の現状を勉強するため毎年学会に参加している状況です。脳血管内治療の中でも脳動脈瘤に関してコイル塞栓術が一般的ですが、近年ではフローダイバーターや Woven Endo Bridge (WEB) などの瘤近傍又は瘤内に留置する新たな治療法が開発され、特にフローダイバーターは当院も使用していますが、脳動脈瘤治療の第一選択になる可能性を感じています。

脳動脈瘤のコイル塞栓術では、分解能のコイルからのメタルアーチファクトの影響により血管撮影でのフォローアップになっていましたが、フローダイバーターや WEB はメタルアーチファクトの影響が少ないため、患者の負担を考えると CT でのフォローアップが多くなると感じています。しかし、現場の CT 装置では分解能の面では最新型の血管撮影装置に比べるとやや劣っていると思い、高精細 CT や高精細再構成技術、そしてフォトンカウンティング CT 等がフォローアップ患者には有用な技術になるのではないかと感じました。いよいよ脳動脈瘤の血管内治療の術後にも CT が活躍する時代を迎えそうです。以前

も書いたかもしれませんが、この学会に対する診療放射線技師の関心が高く、多くの一般演題、シンポジウムや教育講演など毎日放射線技師セッションが組まれており、日々医師の発表も聴講しつつ技師の発表も聞けてとても勉強になる日々が送れます。また医師からの期待も大きく、今回ランチョンセミナーの演者としては初めて診療放射線技師が選ばれました。内容も大変素晴らしく当院の血管内治療医もとても勉強になったと言っていました（私は聞いていませんでしたが）。この学会では初日に放射線技師懇親会を10年以上前から行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で暫く中止していましたが4年ぶりに熊本で再開しました。当日は60名を超える有志が集い、九州料理と焼酎を頂きながら楽しい交流ができていました。北海道からも私や中村記念病院の方も参加され、全国の方とのお話ができる有意義な場所になっていますので、メルマガ読者の方も是非来年以降参加して脳神経領域における様々なディスカッションをして頂ければと思います。熊本と言えば芋焼酎ですが米焼酎の炭酸割りが意外と美味しいという事も懇親会で教えて頂きました。来年は同時期に大阪で開催されるそうです。今年にはなかった新しい治療法を勉強するためまた参加する予定です。



全国から集まった仲間との懇親会（撮影者が酔っ払って写真がボケてます）



コングレスバックには可愛い小物が入っていました